

総務建設常任委員会協議会会議録	
1 開会日	平成22年7月6日 午後 1時30分 開会 午後 3時25分 閉会
2 場 所	議員控室
3 出席委員	柴崎茂委員長 高橋英俊副委員長 山口陽一委員 清水弘子委員 三澤龍夫議員 百瀬恵美子委員 坂田よう子委員 山田喜一議長
4 傍聴議員	鈴木京子議員 奥津勝子議員 浅輪いつ子議員 土橋秀雄議員 渡辺順子議員
5 説明員	町長 三好正則 副町長 吉川重雄 鈴木総務課長 佐野主幹 波多野副主幹 齋藤主査 守屋主査 宮崎主査 原危機管理対策室長 早崎副主幹 和田町民課長 露木副主幹
6 職務のため 出席した職員	局長 飯田 隆 書記 岩田隆吉
7 協議等の事項	(1) 就業管理システム導入について (2) 情報公開ハンドブックの見直しについて (3) 地域防災計画について (4) 自治基本条例について (5) その他
8 その他	

(1) 就業管理システム導入について

「職員の時間管理の徹底」、「情報セキュリティの強化」、「職員証の更新」を目的に本庁舎と保健センターの必要な出入口等にＩＣカードによる個人認証と電子錠を設置したいとの説明があった。

◎主な質疑

問．町は導入計画案の案２を考えているとのことだが、その理由は。

答．案２は案１の施設の出入口に電算室と地下書庫を加えている。案３は案２に１階書庫と５階サーバー室を加えたものだが、この両部屋は担当課が管理をして限られた者しか使わないが、案２の部屋は多数の職員が出入りをし、使用頻度が多いため。

問．心の病で休んでいる４人の職員の状況は。

答．２０代から４０代の職員で、３人が休職、１人が療養休暇である。このシステムの導入によって時間外労働を含め長時間役場の中に拘束されていることが判明すれば改善を働きかけていきたい。

問．このシステムの導入により職員の時間管理の何がわかるのか。

答．現在、出勤は出勤簿の押印で時間外は時間外勤務の命令簿で行っている。自主研究などで役場に残っている職員もいるのでこの場合も管理できるようになる。

問．先進的な例としてどこを調査したのか。

答．松田町が同様のシステムを平成１８年に導入している。

問．生涯学習館、図書館とかへの導入は。

答．最終的には導入をしていきたい。

問．ＩＣカードによる個人認証を採用した理由は。

答．松田町を参考にした。ＩＣカードには職員証の機能もある。

(2) 情報公開ハンドブックの見直しについて

「大磯町情報公開条例の改正」、「大磯町情報公開条例施行規則の改正」、「大磯町情報公開条例の解釈及び運用の基準の見直し」などにより情報公開ハンドブックを見直したとの説明があった。

◎主な質疑

問．行政情報不存在決定通知書を位置づけた経緯は。

答．請求者から不存在の場合にも通知書をほしいという意見があり、他自治体でも定めているところが多いという状況から今回様式として規定した。

問．写しの作成費用の根拠は。

答．近隣市町やコンビニエンスストア等の費用を参考にした。

(3) 地域防災計画について

大磯町地域防災計画の修正は、「国や県における災害の諸対策や新たな知

見」、「各種法改正、運用、組織改編等」、「使いやすさ、わかりやすさ」を踏まえて行うとの説明があった。

◎主な質疑

問．減災への取り組みは。

答．県は三浦半島断層群の地震による死者数を半減以上などの目標を掲げているが、町でも建物の耐震化の促進などにより減災目標を掲げたい。

問．住民と現場の実施点検などにより実践的な計画となるよう時間をかけて計画を修正していくことが必要だと思うが。

答．住民の理解を得ながら、国、県、住民との関連の中で計画を修正していく。

意．実務になるようなことを一歩でも進めてください。

(4) 自治基本条例について

昨年度の自治基本条例策定経過とアンケートの調査結果及び今年度の策定スケジュールの説明があった。

◎主な質疑

問．アンケートで「議会を近なものに感じていますか」はしているのに「町長を身近なものに感じていますか」をしなかった理由は。

答．他の自治体のアンケートを参考にワークショップの皆さんで協議した内容となっている。

(5) その他

ア 神奈川県町村情報システム共同化について

県町村会は、住民記録などの情報システムを共同運用することで合意したとの新聞記事についての報告があった。

イ ドックランについて

山口委員から馬場地区内にドックランの話が出ており、その内容を知りたい旨の申出があり、7月13日の総務建設常任委員会で町から報告をしてもらうことになった。